
気のせい

餅田修

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

気のせい

【コード】

N3220P

【作者名】

餅田修

【あらすじ】

僕はひとつ前の席の彼女に恋をしています。

(前書き)

初投稿です。

短くて拙い文ですが、ほっこりして頂けたら幸いです。

ひとつ前の席。

君はカリカリとペンを小刻みに動かす。

時折、黒板に目をやって、直ぐにノートに向き合う。

カリカリ。

彼女のペンの音だけがやけに響く。

先生の説明なんて、まったく耳に入らない。

その黒く、長い髪をじっと見詰めているだけ。

勿論、彼女が振り返ることなんて絶対にないのだけれども。

絶対に。

そう思いながら、目を伏せる。

すう。

息を吸う音が聞こえた。

前を見ると、彼女が少しだけ首をこちらに向けていた。

目が合う。

恥ずかしいはずなのに、何故か目が離せない。

いや、動けなくなっていた。

たった数秒の時間が、何時間にも感じられた。

長い睫毛がまばたきと共に動くのが、スローモーションのように感じられた。

ゆっくりと。

黒々とした瞳が隠れ、再び姿を見せる。

こっん。

はっと、急に意識がはつきりとした。

背中に小さな衝撃。

振り返ると、後ろの席の女子目をばちばちさせていた。

ロパクで「コレ隣に回して」と、小さく折り畳んだ手紙を渡してき
た。

前に向き直ると、彼女は再びノートに突っ伏していた。
カリカリ。

ああ、気のせいなのか。

そう思って、何やら気が動転していたのだろうか。
隣に回せと頼まれた手紙を、前に送ってしまった。

(後書き)

ありがとうございました。

餅田

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3220p/>

気のせい

2010年12月5日22時27分発行